

## 多治見市合流式下水道改善計画 第3回アドバイザー会議 議事録(概要)

平成 17 年2月28日(月)午後3:00～

於:多治見市役所3F 緑の会議室

出席者:(委 員)坂崎委員, 加藤委員, 横井委員

(事務局)水野下水道課長, 磯村副主幹, 沖本副主幹, 小林総括主査

日水コン 石坂, 稲井

### ■議題

- 多治見市合流式下水道改善計画のとりまとめについて(事務局)
- インターネットによる意見募集結果(事務局)
- その他

### ■主な質疑

(スクリーンによる汚濁負荷量の削減効果について)

委 員:BOD年間放流負荷量(雨天時)において、5年後の放流負荷が減少するのはスクリーン設置による効果か。

事務局:5年後における効果は、既存処理施設の有効利用による効果で、スクリーンによる効果はここではみていません。

委 員:スクリーンを設置しても、水はきれいにならないということか。

事務局:スクリーン設置により、きょう雑物ときょう雑物由来のBOD(きょう雑物自身やきょう雑物に付着した有機物等)を除去することが可能であるため、放流先の河川をきれいにする効果は当然あります。

ただし、BODという水質に着目した場合、数値として表現することが難しいため、「合流式下水道の改善計画」を策定するにあたっては、スクリーン設置によるBOD負荷の削減効果を評価しないものとなりました。

委 員:スクリーンを設置すると、きょう雑物を河川に放流しなくなるため水はきれいになるが、水質としての評価はできないということか。また、きょう雑物が具体的にどのようなものか、わかりにくい。

事務局:実際には、スクリーン設置による効果はあり、5年後のBOD放流負荷量は、実際は計画に記載している値よりも小さくなると考えられますが、数値的に評価が難しいということです。

事務局:きょう雑物の削減がBODとして数値的に把握が困難な理由は、BODは、オイルボールやゴミなどのきょう雑物を取り除いた段階で測定するためです。

(表現方法について)

委 員:平和町雨水吐室からのBOD年間放流負荷量(雨天時)が、5～10年後にかけて、15t/年から10t/年へ減少する理由は、貯留管を新設するためか。図に施策の説明があると、わかりやすいと思う。

事務局:おっしゃるとおり5～10年後にかけては貯留管による効果です。わかりやすい表現となるよう検討します。

(未処理下水の水質について)

委員:概ね時間雨量3mm以上の雨のとき、未処理下水の放流が行われているとのことだが、放流する未処理下水の水質は、一年を通じて同じか。

事務局:晴れの日が続いた後に、強い雨が降った場合、放流する未処理下水の水質は、悪くなります。その理由は、晴れの日が続くと路面に汚れが、たくさん溜まりますが、その後、強い雨が降ると、たくさん溜まった路面の汚れが、雨水に洗い流され、きたない雨水となって下水管に入ってきます。下水管の中では、きたない雨水と汚水が混ざり合い、これが川に未処理で放流されるからです。

(インターネットによる意見募集について)

委員:インターネットによる意見募集で、水路のオープン化はよい意見だと思う。昔、多治見市内を流れる水路の多くは、オープン化していた。今は、水路を暗渠化し、ゲートにより、かんがい期に水を入れ、非かんがい期に水を抜く等の操作を行っている。このため毎年、ゲートを開けたときに遡上し水路内で育った魚が、ゲートを閉鎖し水を抜く事により、死滅している。お金をかけて暗渠化したが、害が生じているのではと感じる。

事務局:水路のオープン化は、夏場の気温緩和に効果があると思いますので、アイデアとしては、とても良いと思いますが、解決すべき課題があります。例えば、分流雨水の水路は、晴天日に水が流れないため、水路をオープン化すると、この降雨時に押し流されたゴミが水路にたまり、景観を損ねたり、悪臭発生の原因となるため、降雨の度に、水路に溜まったゴミを除去する必要があります。

事務局:水路の暗渠化については、「水路を暗渠化してほしい。水路に蓋をつけてほしい。」といった声が数多く役所に寄せられたことを受けて進められたという経緯があります。

委員:強い雨の日に、開けられていた蓋に気づかず、小学生が水路に落ち込み、流され死亡した事故があった。水路をオープン化すると、またこのような事故が起こるのでは。

委員:車や人が落ちて流される危険性があるとすると、水路は暗渠化すべきだと思う。

事務局:公共施設でけがをした場合、昔はけがをした本人の不注意が原因と言われていましたが、今は、防御策を取らなかった行政の怠慢と言われるようになってきました。

委員:水路に蓋をすると道路が広くなり、車同士のすれ違いがスムーズになるなど、よくなった反面、車が速く走るようになり、かえって危険になったともいえる。

事務局:先進都市の中には、下水処理水をせせらぎ用水としてポンプで圧送し、町中に小川を流す施設をつくっているところもあります。このような施設は、一時、脚光をあびましたが、今では財政的に維持管理が難しいという話も聞いています。水路のオープン化については、気温緩和といった環境の側面だけでなく、維持管理面、治水の面等から、多角的に評価する必要があると思っております。

※質疑中の「BOD」とは

水質汚濁指標のひとつで、生物化学的酸素要求量(せいぶつかがくてきさんそようきゅうりょう)のこと。(Biochemical Oxygen Demand の略)

河川・湖沼・海の汚濁物質である有機物の量をまとめて表すために考え出された指標。微生物が水中の有機物を分解するときに消費する酸素の量で有機物の量を表す。この数値が大きいほど、水中には有機物が多く、水質が汚濁していることを意味する。